

保育所における自己評価結果（公表）

公表：令和4年3月18日

保育所名：小規模保育園ひだまりの家

		チェック項目	はい	いいえ
環境・ 体制整備	1	生活空間は、子どもの成長・発達に配慮された環境になっていますか	18	
	2	生活空間は、清潔で、心地よく子どもの活動に合わせた空間となっていますか	18	
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、職員が参加していますか	18	
	4	保育園向け自己評価表や保護者向け評価表の結果を踏まえ、自己評価を行うとともに、その結果・内容を、ホームページ等で公開していますか	18	
	5	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげていますか	14	4
	6	職員の資質の向上を行うため、研修の機会を確保していますか	18	
保育の提供	7	丁寧なアセスメントで子どもの発達状況を把握し、指導計画を作成していますか	17	調理補助1
	8	指導計画に沿った支援が行われていますか	17	調理補助1
	9	活動内容が総合的な視点から柔軟な形で対応されていますか	17	調理補助1
	10	子どもの状況に応じ、個別と集団活動を柔軟に組み合わせて指導計画を作成していますか	17	調理補助1
	11	職員間で情報共有をし、その日行われる保育の内容や役割分担について確認していますか	18	
	12	保育終了後には、職員間で、その日の振り返りを行い、情報共有をしていますか	18	
	13	日々の支援に関して記録をとり、保育の評価・改善につなげていますか	18	

関係機関や保護者との連携	14	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っていますか	18	
	15	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っていますか	18	
	16	同法人の保育園、児童発達支援事業所等の関係機関、または職員と連携し、助言や研修を受けていますか	18	
	17	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、発達の状況や課題について共通理解を持っていますか	18	
	18	保護者に対して保護者向け講座や家族支援プログラム（親と子の心を結ぶプログラムTo Heart等）の支援を行っていますか	18	
保護者への説明責任等	19	入園のしおり、運営規程、重要事項、利用者負担等について丁寧な説明を行っていますか	18	
	20	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っていますか	18	
	21	保護者参加型の行事、保護者向け講座等の開催により、保護者同士の連携を支援していますか	18	
	22	子どもや保護者からの相談やご意見について、担当窓口が決まっていて、適切に対応していますか	18	
	23	園だよりやホームページ等で、活動や行事内容等の情報を子どもや保護者に対して発信していますか	18	
	24	個人情報の取扱いに十分注意していますか	18	
非常時等の対応	25	保育園の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた園運営を図っていますか	18	
	26	緊急時の各種対応マニュアルを策定し、入所時に保護者へ周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練を実施していますか。	18	
	27	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っていますか	18	
	28	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認していますか	18	
	29	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされていますか	18	
	30	ヒヤリハット事例集を作成して保育園内で共有していますか	18	
	31	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしていますか	18	

自由記載
保育理念・保育内容・環境
○自分の孫が近くにすんでいたら、ぜひ入園させたいと思えるほどひだまりの家の保育理念、保育内容、保育環境について共感しながら自分自も保育させていただいています。
○ベテラン保育者と若い保育者のバランスがよく早朝、通常、延長を担当する保育者の連携が図れていて、携わる保育者が多くても子どもに安定した環境を提供できている。
○常に保育環境の整備に心掛け、子どもの状況や成長に沿った空間の工夫や子どもの遊びが広がるおもちゃ（手作りおもちゃが素晴らしい）が準備され、そのことが子どもの好奇心や感性を豊かにし、子ども同士や保育士との会話を促して、コミュニケーションが広がることに繋がっていると保育をしていて実感しています。
○調理している姿が食堂からみえるキッチンが、とても家庭的で調理師も子どもたちが自然に親しみ、園の構成員みんなで保育をしているという保育園全体の空気を作っていて子どもにも良い響を与えているのではないかと思います。
○子どものみならず保護者への支援にも配慮されており、保護者向け講座のほか、登園時等の機会に園長先生や担任の先生から保護者への声掛けを丁寧にされており保護者の安心成長に繋がっているように思います。地元新鮮野菜の販売等も保護者への支援としてとても助かる取り組みだと思えます。
○今年度は、メダカ、カブトムシ、お蚕等の飼育を通じて子どもに生き物に触れさせる機会が多くあり、とてもよかったです。特に蝶々の羽化、蚕の生態の様子を子どもに見せられたことは素晴らしいかと思います。保護者も感動しておられ園児との会話はずんずん進んでいました。保護者自身がそういった自然とあまり触れあって来なかった世代になりつつあるのでとても貴重な機会であったと思えます。
○園児の間で噛みつきなどのトラブルに発展した時の園（園長先生）の対応において、良好な信頼関係が回復していくプロセスはとても勉強になりました。どう対処するかによって、その後の保護者との関係がより強まるのか、それとも一気に信頼をなくしてしまうのかが決まる緊張感が高まる難しい事案だったと思います。様々な保護者がいて年々対応は難しくなっていると思いますが、結局は誠心誠意お詫びする、保育士としての信念や保育の意義や子どもの特徴などを保護者に丁寧に伝える姿勢を持ち続けることがとても重要だということ学びました。
○職員打合せの資料や月案等を共有してもらうことを通じて、保育を通り巻く状況や、園の保育方針等を知る機会を得ています。
○子ども一人ひとりを大切に思い、よりよい保育をみんなで考えていく素晴らしい園だと思います。
○小規模保育園なので、子ども一人ひとりの個性を大切にすることができる。子どもたちが自分で考えて行動できるよう「待つ」と言うことを心掛けてきた。
○風通しの良い保育園、思いを伝えやすく、すぐに話し合いを持ってくれたりそれをすぐに保育室に戻りやってみようとする。保育士同士の連携もできていると思う。思うようにできない時にはその都度気づいたことを言葉に出して色々なやり方を模索しながらやって行きたい。
○保護者対応に関して子どもの様子を感じとり、家庭においてはどうであるか気持ちを大切にしておくようにしてきた。時には「またか」「あー」と気持ちが伝わってしまうことも・・・反省しきり。自分の思い込みが優先していないか自分自身の振り返りを大切にし、保護者の気持ちも汲み取りながら、園の様子、家庭での様子を共有できるように保護者の態度を感じ取るようにしてきた
○自分自身が悩んでいる時には、職員に相談がしやすい環境である。子ども一人ひとりに向き合い関わっている。ケース会議では、子どもの対応や気になる点など全員が同じ気持ちで共有できる。法人研修では親への支援や気になる子ども等を保育する中で関わっていく人たちのことをより深く学べることができ、関わる時に意識するようになりました。
○一人ひとりの子どもを受け止め尊重し、丁寧なやりとりの中で一緒に楽しみ共感し、成長を信じている姿、温かい雰囲気のお家の中で、保育士、看護師、調理員、近隣の方に囲まれてみんなで子ども達を育てていこうとする点がよかったと思えます。
○法人研修では、子ども、保育者としての自分、自分自身の内面を様々な面から考える機会になりました。気になる子ども、価値観についての研修は、とても勉強になりました。気になる子ども、親への支援では事例からどのような支援に繋げて育にか皆さんの意見を聞きでき勉強になりました。
○季節やその時々の子どもの興味を持っているものに合わせた手作りおもちゃや自然物（どんぐり、松ぼっくり、落ち葉等）を用意したり子どもたちが興味のある歌をピアノで練習したり保育の幅が広がるように努力した。
○リーダーをする時間を頂いてその都度改善点等考え振り返ったり、ほかの方の保育を参考にし、次の保育につながるように心掛けた。
○温かみがあり、その中で子どもたちが育っていける家庭的で顔が見える環境の中で、安心安全な食事が出る場、小規模だからできる点です。

○子どもたちの「安全基地」になりたいと心に寄り添うこと、ゆっくりと関わることを心掛けてきました。
○人を大切にするという考えをどの職員も心に持っていると感じられるところ。
今後に向けて
○ひだまりの家で大切にしてきた保育(to heartの考え)について考え深め、職員間で共通理解をはかること。(努力した事、不足だったことの両面でいえることです)
○012歳児の保育について他園の実践について知りたい。(法人内の保育実践も可)ケース検討は専門員の方に来ていただき学びが深まった。
○延長保育の際、低年齢児も一緒に過ごすため玩具の線引をどうしたらよいか悩むことがあります。延長保育で遊んでも良いもの、危険と判断されるものの線引きを明らかにしていただけると助かります。
○保護者支援や保護者等対応など、どの職員も自信をもって保護者に対応できるよう学びを深めていく
○支援が必要な子や家庭環境の難しい子について、見立てや関わり方等の事案を取り入れた研修等を行い職員全体の底上げをしていく

○この「保育所における自己評価結果（公表）」は、保育所全体で行った自己評価です。